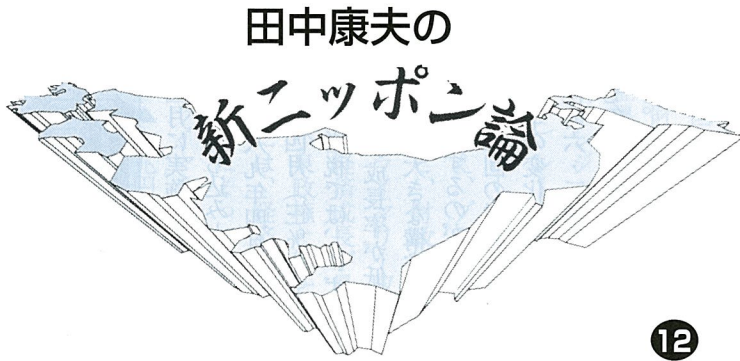


漫画『北斗の拳』の決めゼリ「お前はもう死んでいる」を借りれば、「日本はすでに負けている」とも言えます。悲しい哉、情報戦に於いて。一例を挙げます。

12



田中康夫の

「自爆史観」

メディアも同様。天皇の為に戦死した兵士を祀る時空として明治時代に建立された史実は存在するにせよ、「War」の文字は一体、誰が何時から挿入したのか、杳として判りません。にも拘らず日本側が削除を求めた話は聞きません。戦死者ではないA級戦犯を合祀する問題以前に、イメージの固定化を自ら傍観しているのです。

ハーグでの日米韓首脳会談実現の「前提条件」として、「河野談話の見直しは考えていない」と衆議院本会議で首相が明言する展開になりました。「自虐史観」から日本は解脱せよと談話否定を待望していた面々は「失望した」と激昂するかと思いきや、音無しの構え。君達の信念と覚悟はその程度だったのか、と逆にこちらが失望を抱きたくなります。

「Yasukuni War Shrine」。「ワシントン・ポスト」も「フィナンシャル・タイムズ」も更にCNNやAP通信も、靖国神社を靖国戦争の神社と表記しています。他の欧米

その一方で、談話は継承するが策定過程の検証は実施する。検証はするが公表はしない。日本独特の奇妙な「禅問答」を行っているのです。日韓間で往時もホットだった慰安婦問題を沈黙化すべく、政治的・外交的判断で宮澤喜一政権は談話を纏めたのですから、両国間で意向を確認しながら作成し

たのは自明の理にも拘らず。それにしても、と憂慮します。安倍晋三首相の周囲の面々が繰り広げる些かならず粗雑な言説が、政権のみならず日本への「失望」を生み出し、徒に孤立化を招いているのですから。前述のWP、FT二紙に加えて「ウォール・ストリート・ジャーナル」、「ル・フィガロ」も社説や論説で、日本は「歴史修正主義」リヴィジョニズムに猪突猛進していると懸念を表明。FTに至っては「予測不能で危険」と慨嘆しています。

「自虐史観」批判の代表選手たる百田尚樹氏は街頭演説で、「蒋介石が日本が南京大虐殺をしたとやらから宣伝したが、世界の国は無視した。何故か。そんな事は無かったから」と高言しました。いやはや、親日派の台湾の朋友にも喧嘩を売る話ではありませんか。「旧日本軍が南京に入る際、非戦闘員の殺害等の行為が有った事は否定出来ないと考えている」と菅義偉官房長官が定例会見で言明せざるを得ない事態も招いています。「もみ」と振り仮名を記さずとも「初級」をゆとり教育の世代に読解可能とさせたのが今や唯一の

功績と冷笑される初井勝人氏も同様です。就任会見で、「戦争をしているどこの国にもあったでしょ」と従軍慰安婦に関する「持論」を披瀝する中で、オランダでは合法的「飾り窓」を引き合いに出しました。この一点で国際的に彼は「退場」不可避です。

国際軍事裁判で日本軍人・軍属に有罪が宣告され、日本政府に謝罪と補償を求める決議を改めて七年前にオランダ下院が採択した「白馬事件」。元々はオランダの植民地だったインドネシアを占領した日本軍の将校が数十人のオランダ人女性を慰安所に強制連行し、軟禁状態で強姦した史実を、嗚呼、自称「国際派」経営者は御存知なかったのです。

「日本が侵略しなかったと言った事は今まで一度もない」と永田町・霞が関文学的な表現を繰り返さず、「日本は侵略した事がある」と簡明直截に国会答弁せよ、と突き付けられ兼ねぬ深刻な状況。「自虐史観」を批判する面々が繰り広げる粗雑な言説は、自画自賛の「自虐史観」を超えて今や、日本を毀損する「自爆史観」と呼ぶべきでしょう。

★次号5月号の発行日は4月25日(第4金曜日)です。